FAIRYSLAVE
片耳豚
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

娼館魔術〈儀式系〉
大人数発動型の誓約型魔法。
契約した対象を性的に支配し
使役する空間を
異相上に生成する大魔法。
発動により異空間と化した
洋館内で起こった契約者の
身体的変化は外界に出た際に
これを適用しない。
なんだこれ。

ピッ
あの事件に出くわしたのは
私が「妖精女王」として
名の売れだした頃だった——
思えば気の緩みからの
油断があったのかもしれない
かなりの好条件なのに
誰も手をつけない依頼書
不思議には思ったが
私はこの依頼を受けることにした
注意深く観察していれば
気づけたかも知れない
それは——
獲物を誘い出す罠だった

ハメられたことに気づいたのは
契約が成立した瞬間だった

不当な違約金を
巧妙に隠蔽した契約書――

男は裏ギルドのメンバーだった
違約金はとても払える額ではなく
逆らえばホームにも累が及ぶ――

契約そのものが儀式魔術の一環で
強引に破棄すれば
呪いじみた強制力で罰則を執行する

内容も解釈によって
いかようにも取れる文面で
事ここに及んで私の身柄は
期間内は拘束されることとなった

「我々の儀式にご協力頂ければ結構。
報酬も正当にお支払い致します」
選択の余地はなく
私は男の要求を受けざるを得なかった

これが長い三ヶ月間の
始まりだった

男は自分のギルドを
「淫蕩の夜会」名乗った――

さあエルザ殿こちらに儀式の下準備が御座いますゆえ

かの名高い「妖精女王」殿が加わって下されば儀式は成功したも同然

お召し物は換装していただけると有難いですな

おお――これはお見事それではこちらにこちらに――

これよりエルザ殿には「淫紋」を宿して頂きます

施術はこちらの者達より抵抗なさりますと契約破棄になりますのであしからず――

儀式は――

「卑猥」の一言だった

「舌で来るとは思わなかった」
思わぬ不意打ちに強気で返すが
暫くしてからこの行為の
悪辣さに気がついた

体内の魔力の流れを
いじられているのだ――

き……貴様ら――
しつこい――ぞっ

執拗に――執念深く――
下から流れ込む魔力によって
肉体の感覚を高められる

いつまで――んんっ……
舐め回せば――っ

循環する魔力が切り替わり
粘つく舌の不快感が快感に
切り替えられていく

なんとかしなければと焦るが
徐々に昂ぶっていく体に
「気持ちよさ」が駆け抜け
声を上げないでいるのが
精一杯という有様だった

どれほどの時間
舐め回されていたか――
正直なところ記憶が
途切れ途切れで憶えていない

お見事です……流石は妖精女王
エルザ殿には――
娼館魔術の才能がお有りのようだ

うる――ひゃい……

これならばスグにでも
顧客の方に引き合わせられますな

体内で猛火の如く燃え上がる
疼きと快感に炙られて――
私は「淫紋」が刻まれたことにすら
気づかずに――意識を失った

意識を取り戻すと
扇情的な衣装にきがえさせられ
水晶球の前に引き出された

「淫紋」の効果なのか
水晶を通して舐めるような
視線を感じる――

紋の効果で居場所を察知されると聞き
逃走を封じられたことに歯噛みする

ネットリとした視線に「淫紋」が
疼きを送り込んでくるのが
腹立たしいがどうすることもできず
私は体を晒すしかなかった

どうやらこれから私は
「競り」にかけられるらしい――

儀式に出資しているという私を競り落とした男は悪どい遣り口で知られる新興の豪商だった

ほほぅ――君が噂の妖精女王か生で見るとやはり格別だなぁ大枚をはたいたかいがあった

離せ――気安く触るな……

いつもなら殴り倒して出て行くところだが契約のためそれもできず疼く肌を撫でさする手に耐えるしかなかった

サス

サス

おお怖い怖い！

でもそんな君も今は――ほれワシにこぉんなことをされても何の抵抗もできずに胸を差し出すしかないねぇ

ん

ビッ

こ――のっ下衆めぇ……っ

淫……紋――がなけれ……ばこの……程度で――っ

あのティターニアを自由に躾けられる機会は滅多にないだろうからな張り切らせてもらおうか

淫紋の熱に浮かされた体に
男の責めは苛烈だった

我慢せずに
声を出してもいいんだぞぉ？

ほれほれ――
舌を出して迎えんか

金にあかせて女を買いあさってきた
男の手管に翻弄され細かな喘ぎを
抑えられない

んん――やっ――
ん――むぅ……

んん！！
甘露甘露！

やめ――はみゅ……っ

次々と私の甘所が掘り当てられ
何があっても乱れてやるものかと
決した意志が揺さぶられる

今の状態で嬲られるには
相手が悪すぎた――

極太の逸物を見せつけるように
凶悪な雄のソレが
私の秘所にあてがわれる

ビクッ

ビクッ

ビクッ

さてと――それではそろそろ
妖精の秘蜜をいただくとしようか

ま――待て――
そ――れはっ

ふほほ――
あのエルザ・スカーレットが
ワシのような男になすがまま
大股開きで淫壺を差し出す
ことしかできんとは――

興奮が収まらん――

のおおおっ！

こ――れ――

ずぷぷぷぷっ

ビクッ

マズ――いぃぃぃっ

ほれほれ……そんなに睨まんと可愛らしく鳴いてみせんか

ズッ ズッ ズッ ズッ

この——程度でっ誰が声など——っ

おやぁー？　どうした？妖精女王ともあろうものがだらしない顔なってきているぞぉ？

ここか？　それともここか？エルザは弱点が多くてどこを擦り堕とすか迷うのぉ

ふ——ざけ……んんっふざけるなぁっ！

はぁ はぁ はぁ はぁ

あっ あっ あっ あっ

やめ——ひゃめ……ろぉ♡それぃ——じょう♡そこ——こす……らぁ——っ

ぬほほっ！　卑劣な男のチンポで雌の表情になるのか？雌顔さらすのか？

あ——♡ あ——♡

ゴロ ゴロ ゴロ ゴロ

きーーくううう

ぱまぁぁぁ♡

そうらそうら！
素直にならんなら
雌イキから降りられなくなるまで
妖精マンコにお仕置きだぞぉ

むほぅ――！
名残惜しそうに吸い付きおって

これ――効き過ぎるぅ

そうかそうか――
スグに奥まで会わせてやらんとなぁ

思考――と……ぶぅっ

その日の陵辱は
私が気を失うまで続けられた
あの妖精女王が
ワシの腹の下で
身も世もなく
鳴きイっているぅ！
決めたぞ！
必ずワシのオンナにしてやる！
チンポ漬けにして身も心も
堕とし込んでやるっ
何発もの精を放たれて
膣奥が男のモノで満たされても
さらに注がれ続ける
暴力的な快感——
「淫紋」を刻まれ——
娼館魔術に取り込まれ——
淫らに鳴かされて——
契約から僅か二日——
逃げる手立てを考える暇もなく
この時点で私は——完全に
絡め取られたことに気がついた

それから一週間――
いまだに私はこの館から動けず
始めて私を買った男の相手を
させられ続けている

かなりの金を注ぎ込み
私を連続で競り落としたらしい

望まぬ行為も憶えさせられ
体のあらゆる場所で男のモノを
悦ばせられるように強要された

完全に囲われたカタチで
私は一人の男に
体を差し出し続けている

娼館魔術の効果なのか
行為の最中に
男の一物が萎えることはなく
それと呼応してこちらが受ける
快感は強くなっていく

今日もまた男好みの
いやらしい換装で
男の下卑た興奮を
煽らなければならない

萎えない――
チンポを喉奥で――
何度も何度も――
頭を撫でられ――
髪を梳かれるのが――つらい
射精の衝撃と快感が
すり替えられていくようで
頭が混乱するからだ――
精液は匂いが凄まじい――
雄の匂いだ……
射精を終えてもすぐには
飲み込ませてもらえず
クチャクチャと口の中で味わって
飲み込むことを仕込まれてしまった
匂い――精臭――
鼻から抜けて――
めまいがする……
ぬるっ

そうらどうした淫乱ウサギめ
もっとはしたなく腰を振らんか！

まっへぇ——きひやまが
こひ振り……あひょこのおくにい
ちゅよすぎる——からぁっ

ぱ
ぱ
ぱ
ぱ

あ♡
あ♡
あ♡
あ♡
あ♡

貴様ではないここでは
旦那様だろう？
また一晩中教えなければならんかぁ？

どう——せ一晩……中♡
続け——るのだろうがっ♡

もう——ひゃめ……ろぉ
イキスギてぇ……♡
あひゃま——らんにも……
かんがえられにゃいからぁ♡

だったらいい加減
ワシの女になればよい
毎日屈服調教で
妖精奴隷妻に
堕としはめ込てやるわい

は——♡
は——♡
は——♡

ふじゃ……けるなぁ——♡

ここまで強情な女は初めてだ
かならずハメ乞いさせて
雌堕ちさせてやるからな！

ハァ

ハァ

だ――れがぁ……
こんな――チンポに♡
屈する……もの……かぁ♡

はぁ――♡

はぁ♡

ドクッ♡

ドクッ

ドクッ

ドクッ

ドクッ

この男との関係は
ギルドの仲間達が別件で
裏ギルドを叩く
契約満了ギリギリまで
続くことになる――

その後――この裏ギルドとは
別の事件で再び
邂逅することになるのだが
それはまた別の機会に語るとしよう

ゴポ

ゴポ

ゴポ

あとがきだよぅ

どうも寒衣屋です。
今回はホントに危ないので手短に
いろいろ遅れてずれ込んで
もうなんか今年はヤバイのですね。
しっかりしなきゃ死んでしまうよホント。
ピンチはピンチだよホント。
戦わなきゃ！現実と！あと時間と！
それでは手にとっていただき
感謝言葉しか浮かばねぇ。浮かばねぇのです。
ではまた
機会がございましたら。

PS：「じゃあさ、いつになったら俺はのんのん村に移住できるわけ？」

奥付
発行 / 片耳豚
発行日 /2015/08/16
印刷 / K9
連絡 /katamimibuta@yahoo.co.jp

HARDBOILED
片耳豚
ぷれぜんつ